

#### ごあいさつ

海外への自由な往来が禁止されていた江戸時代、日本を訪れる外国人は非常に限定され、異国の地を踏む日本人はさらに限られていました。しかし、厳しい制約のなかでも、日本とヨーロッパの間を多くの交易品が行き来し、遠い国々の技術や表現に学んだ美術工芸品が双方の地で誕生しました。

東京国立博物館は、南蛮漆器や洋風画、輸出陶磁器のほか、長崎奉行所旧蔵のキリシタン遺物、紅葉山文庫や蕃書調所などの江戸幕府関連施設に伝来した地図や洋書、シーボルト旧蔵書といった歴史的に重要な資料を収蔵しています。本展では、江戸時代における東西交流から生まれた所蔵品およびご寄託品を紹介します。世界的な鎖国状態の最中にある現在、改めて江戸時代の人びとに思いを馳せつつ、外国に対する好奇心を自国の文化、美術のなかで昇華させた歴史を振り返ります。

#### Foreword

During most of the Edo period (1603–1868), movement between Japan and the outside world was strictly regulated. Only some foreign delegations and merchant ships could enter Japan, and Japanese people were not allowed to travel abroad. Despite these restrictions, there was brisk trade between Japan and Europe. This led to the emergence of arts and crafts in each region that were influenced by techniques and forms of expression adopted from their remote trading counterparts.

The Tokyo National Museum is home to many valuable historical materials that testify to this global exchange, such as Nanban lacquerware, Western-style paintings and prints, and export ceramics. Its collection also includes Christian artifacts from the Nagasaki Magistrate Office, documents once housed in the Siebold Collection, and maps and Western literature transmitted through institutions related to the Edo Shogunate, such as the Edo Castle Library and the Institute for the Study of Western Books, where foreign books were translated and published in the mid-19th century.

This exhibition uses these items and other objects entrusted to our museum to explore the exchanges between East and West that occurred during the Edo period. With global borders currently locked down again, now is a good moment to revisit a time when the people of Edo looked inquisitively overseas and began to assimilate aspects of Western art, technology, and culture.

#### 特集 世界と出会った江戸美術

東京国立博物館 平成館企画展示室 令和2年(2020)11月25日(水)~令和3年(2021)1月11日(月·祝)

主催:東京国立博物館、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

#### 凡例

- ・本パンフレットは、「特集 世界と出会った江戸美術」の出品作品の一部を紹介するものです。本パンフレットの構成は 陳列順とは必ずしも一致しません。また、展示替などの都合により、収録作品でも展示されていない場合があります。
- ・収録作品は、特に記載のある場合を除き、東京国立博物館の所蔵品です。
- ・図版の作品データは、指定(◎は重要文化財)、作品名称、作者、地域、時代・世紀、所蔵の順に記しています。







### 西洋との出会い

15世紀初め、西ヨーロッパに端を発して世界規模の交易ネットワークの確立をもたらした大航海時代の波は、16世紀半ば頃には日本にたどり着いた。これにより、西洋文化やキリスト教などが伝えられた。そして17世紀の幕開けの年にはオランダ船デ・リーフデ号が豊後に漂着した。その後、約250年にわたって日本はオランダを通して海外情報や貴重な舶来品を得ながら、鉱物や美術工芸品を輸出した。外国との往来が厳しく制限されるなかにあっても、日本には西洋の学問や文物がもたらされ、さまざまな階層の人びとを魅了した。 (W)

花樹鳥獣蒔絵螺鈿櫃

Chest, with Flowers, Trees, Birds, and Animals 江戸時代 · 17世紀

ヨーロッパ向きに作られた、かまぼこ形の禁 をもつ洋櫃。本作は、蒔絵、螺鈿、鮫皮で装 飾されている。江戸時代になると、東南アジ アから鮫皮(実際はエイの皮)が日本に輸入 され、これを用いた漆器がオランダ東インド 会社を通じて輸出されるようになった。(IK)





◎ 悲しみの聖母 (親指のマリア)
Mater Dolorosa (Madonna of the Thumb)

19リア

17世紀後期

胸前で両手を握りしめ、悲嘆の涙をこぼす 聖母マリア。十字架にかけられたイエスの足元に立つ聖母の姿から派生した本図像は「悲しみの聖母」と呼ばれる。本図は宝永5年(1708)に屋久島に潜入したイタリア人宣教師ジョヴァンニ・バッティスタ・シドッチ(1668~1714)が携行した。フィレンツェの画家カルロ・ドルチ(1616~87)の作風に似る。 (W)



桔梗蝶楓鹿蒔絵螺鈿聖龕 Shrine for Saint Stephen with Balloon Flowers, Butterflies, Autumn Leaves, and Deer

安土桃山~江戸時代・16~17世紀

キリスト教の聖画などを祀るための厨子を聖 龕という。本作は、扉表に桔梗と蝶、扉裏に は楓と鹿が、蒔絵と螺鈿で装飾されている。 内部にある聖画は、聖ステファノが殉教する 場面であり、メキシコ先住民の伝統技法で ある羽根モザイクで表わされている。









#### ◎ 十字架 (聖遺物函) Crucifix (Relic Case)

安土桃山~江戸時代・16~17世紀

内部を空洞にして聖遺物を収めるロザリオの十字架。銅を主体とした金属を黒く着色し、魚々子地に金めっきでIHSの文字と十字架を組み合わせた紋章などを表わす。釘や金槌はキリストの受難を象徴したものとされている。素材や技法から日本で製作されたものとみられる。(Sa)

# ◎ 板踏絵 塑母子像 (ロザリオの聖母) Fumi-e (Trampling Image for Apostasy) with The Virgin and Child

製作地不明 17世紀

マリアからロザリオを受け取るのは聖ドミニコである。板に嵌められたメダイは17世紀初頭にドミニコ会の宣教師がもたらしたものか。粗放なつくりから、スペイン総督府が置かれ、ドミニコ会も布教の拠点にしていたマニラ、または日本で作られた可能性がある。 (A)



#### ◎ マリア観音像 Maria Kannon 中国、徳化窯 明~清時代・17世紀

ごつごつした岩の上に座る姿にはマリアと結びつく要素がない。中国福建省の徳化堂で作られたこのような磁器製の像は、16~17世紀のヨーロッパに大量に輸出されたので、ヨーロッパ経由で日本に入った可能性もある。ヨーロッパから来たのでマリアとされたのではないか。 (A)





オランダの人文学者デジデリウス・エラスムス (1466~1536) の像。ロッテルダムを1598年 に出港したデ・リーフデ号の船尾に付けられていた。この船にはイギリス人航海士ウィリアム・アダムズ ( 章清教針 [1564~1620]) が乗っていた。デ・リーフデ号の到達により、オランダとの交流が始まった。オランダはキリスト教の布教をせず、貿易だけを目的とした。 (A)

#### 南洋鍼路図

South Seas Nautical Chart

コルネリス・ドッツゾーン作 オランダ、エダム 1598年

北は日本、朝鮮、中国から、南はニューギニア島や、未知の地であった南方大陸までを収めたオランダ製の航海図。日本列島は、東北が南側に屈折したドゥラード型で描かれる。本図は慶長5年(1600)に豊後に漂着したデ・リーフデ号が舶載したと伝わり、江戸城の紅葉山文庫に保管されていたと考えられる。

(W)





### 

Perspective Print of Koxinga in Foreign Lands 歌川豊春筆

江戸時代·18世紀

正徳5年 (1715) に初演された近松門左衛門 (1653~1725) 作『国性爺合戦』を題材にした作品。朔の遺臣を父、日本人を母にもつ主人公の和藤内 (鄭成功 [1624~62]) が中国に渡り、明朝再興に奮戦する。西洋の銅版画などに学んだ遠近法を用いて奥行きある景観を表わし、家臣を率いる和藤内が城を目指す様子が描かれる。 (W)

## ヨーロッパで 愛された 伊万里焼

17世紀初めに有田で始まった国内初の磁器は、伊万里港から運ばれたことにちなみ伊万里焼と呼ばれる。順治18年(1661)に清朝で選界令(一種の海岸封鎖令)が出され、中国における陶磁器貿易が混乱をきたすと、オランダ東インド会社は中国陶磁にかわる輸入品として、日本の伊万里焼を求めるようになった。乳白色の地で日本独自の風韻をもつ「柿右衛門様式」はヨーロッパ貴族を魅了し、金彩を加えた「金襴手」の煌びやかな大型品は宮殿や邸宅の装飾として取り入れられた。このように、輸出伊万里は絶大な人気を博したのである。(Y)



#### らきなかませんがつもんたいで 色絵傘人物文大壺 Large Jar with Figures Carrying Umbrellas 伊万里 (柿右衛門様式) 江戸時代・17世紀

「濁手」と呼ばれる乳白色の地に、染付と色 絵が施された典型的な柿右衛門様式の壺。 輸出伊万里は、はじめ中国陶磁にかわるも のとして求められたため、中国的な画題の絵 付けが多く、本作に登場するのも中国の人 である。蓋のある類作が伝わり、ドイツ郊外 の古城の天井画にその有蓋壺をもつ天使が 描かれている。 (Y)



#### やる え うんもんすいちゅう 色絵雲文水注 Ewer with Clouds 伊万里 (柿右衛門様式) 江戸時代・17世紀

ヨーロッパで銀製の蓋が付けられた、いわゆる「里帰り」の輸出伊万里。蓋には「1671 (年)」の刻みがあり、本体がそれより以前に作られたものとわかる。また濃い赤色の地文は、初期の輸出向け色絵磁器に通ずる。輸出もののなかでも早い時期の基準作として重要な一作である。 (Y)





色絵金襴手鯉滝登り鳳凰文有蓋大壺 Large Lidded Jar with Phoenixes and Carp Swimming up a Waterfall

伊万里 江戸時代·18世紀 個人蔵

里帰りの金襴手作品。もとは「沈香壺」と呼ばれる広口の有蓋壺であったが、ヨーロッパで金属やガラスのパーツを付け足され、ランプに加工されている。オリジナルの壺は窓絵の構図をとる。やや濃い染付を地にして、赤、金で滝登りの鯉や鳳凰などを、器面を埋め尽くすように描いた、豪華絢爛な壺である。(Y)

The fibrating state moves

### 輸出漆器

大航海時代の西洋人は、世界各地の特徴的な工芸品を求めており、蒔絵や 螺鈿の装飾技法を駆使した日本の漆工に深い関心を寄せた。このため日本で は西洋向きの漆器が注文製作されるようになった。日本から西洋に輸出される 漆器の内容には時期によって変化があった。近世初期には、キリスト教の祭具 や、かまぼこ形の蓋をもつ洋櫃などが製作された。近世末期には、西洋の銅版 画を蒔絵で写した飾り額(プラーク)や代彩色を施した薄貝螺鈿の家具調度が 製作された。



トレビの泉図蒔絵プラーク Plaque with the Trevi Fountain 江戸時代・18世紀

江戸時代後期には、オランダ人の注文によって、西洋の銅版画を写した蒔絵のプラークが製作された。掛金具を付けた銅板の表面に漆を焼き付けて、そこに西洋の銅版画の図様が蒔絵で表わされた。本作では、ローマのトレビの泉の景色が表わされている。(IK)

フリーメイソン螺鈿箱 Box with Freemason Design 江戸時代・19世紀

秘密結社フリーメイソンに関する意匠を螺鈿で施した箱。蓋表の中央部に、リボンを掛けた八角形の窓を開き、神の目、コンパスと定規、蠟燭に囲まれて横たわる人物などが表わされる。フリーメイソンのシンボルや秘密儀礼の様子を表わしたものであろう。(IK)





Box for Medicine Vials with Birds and Flowers 江戸〜明治時代・19世紀

蓋および身の前面が蝶番で開く構造の、薬物を納めるための漆塗りの箱。外側には尾葉がいた。外側には花卉文様を、伏彩色を施した薄貝螺鈿で表わす。有田ののきとは書きば(1812頃~78)が販売した磁器の商標とされる「蔵春亭造」という銘のある赤絵の薬瓶が付属している。(IK)

#### ガラス絵蒔絵煙草盆 Ashtray

江戸時代・19世紀

火入、灰落、煙管掛を備えた煙草盆。漆塗りの器体に、唐草文を蒔絵で施し、側面と背面にはガラス絵を嵌め込んでいる。ガラスに油絵具などで絵を描くガラス絵の技法は、江戸時代後期にヨーロッパから日本に伝わり、長崎などでエキゾチックな作品が製作された。 (IK)



## 蘭学と洋風画

杉田玄白 (1733~1817) 主導のもと完成した西洋解剖書の訳本『解体新書』 (安永3年 [1774] 刊) の出版をきっかけに、江戸における蘭学は目覚ましい興隆をみせる。玄白のもとには蘭学のみならず洋風画を志す者も訪れ、人的ネットワークの広まりと舶載洋書の流通により、洋風表現の世界は流派の垣根を越えて拡張を続けた。等ではいる (大人の) では、大人の) では、大人の)



◎ 浅間山図屛風 Mount Asama 亜欧堂田善筆 江戸時代・19世紀

浅間山の雄大な景観を、西洋絵画から学んだ表現技法によって表わす。 亜欧堂田善 (1748~1822) は師の谷文晁 (1763~1840) が描いた『名山図譜』の浅間山図をもとに、画面構

成を練って本図を作成した。田善は陸奥国 須賀川に生まれ、藩主の松平定信(1758~ 1829)の命により西洋の銅版画技術を習得、 洋風画を手がけた絵師である。 (W)



#### 草花図扇面 Grasses and Flowers 安田雷洲筆

安田雷洲筆 江戸時代·19世紀

安田雷洲は御家人身分の洋風画家で、現在確認されている肉筆画は20点にも満たない。田善と同じく銅版画を得意とし、一つ一つ重ねられた本図の細い線にはエッチングの影響がみられる。青一色で描かれた洋花からは気品が漂い、洋風表現を自家薬籠中の物とした雷洲の高い技量がうかがえる。(So)

#### かいたいしんしょ

New Text on Anatomy

杉田玄白ほか訳 江戸時代・安永3年 (1774)

蘭学興隆の礎となった西洋解剖書の訳本。 小塚原刑場で腑分けを実見した小浜藩医の 杉田玄白は『ターヘル・アナトミア』など複数の医学書を底本とする翻訳事業を企画し、 3年半の歳月をかけて本書を完成させた。 \*\*\* た いまり では、 \*\*\* た いまり では、 \*\*\* た いまり では、 \*\*\* か いまり では、 \*\*\* た いまり では、 \*\*\* た いまり では、 \*\*\* た いまり では、 \*\*\* か いまり では、 \*\*\* \*\*\* か いまり では、 \*\*\* か



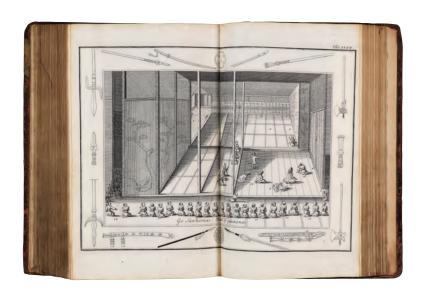


外科道具差 Medical Implements 江戸時代·19世紀

ドイツ出身の医師フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト (1796~1866) が使った携帯用の医療器具で、金文字の名前入りの紅色皮製ケースに、メス、スポイト、動しなど15

点を収める。シーボルトよりオランダ通道の \* 古雄権之助 (1785~1831) を経て、越後の 医師五十嵐其徳に譲渡されたと伝えられる。

(IS)



#### 日本誌 (英語版)

The History of Japan (English Edition) エンゲルベルト・ケンペル著 イギリス、ロンドン 1728年

エンゲルベルト・ケンペル (1651~1716) は元禄3年 (1690) から約2年間、滞日したオランダ商館の医師。日本に関する情報をまとめた本書は、西欧における日本研究の礎として高く評価される。ここに掲載した挿絵は、江戸城で徳川綱吉 (1646~1709) に拝謁する場面。御簾の奥から将軍や女性たちが覗く様子がスケッチされている。 (W)





#### 世回両部平定得勝図

The Victorious Subjugation of the Dzungar and Qingkuang

郎世寧 (ジュゼッペ・カスティリオーネ) ほか下絵、中国清時代・18世紀

清朝最盛期の皇帝である乾隆帝 (1711~91) は、準噶爾部と回疆部 (現在の新疆ウイグル自治区) を平定した戦闘のもようを西洋人宮廷画家に描かせ、フランスに送った。これを下絵に銅版画を製作させ、自身の戦

勝を喧伝するためである。正確な透視遠近法、明暗法の使用と、非常に精緻な描写が大きな魅力といえよう。18世紀中国における西洋画風愛好を物語る作品。 (U)



新吉原大門口中之町浮絵根元 Perspective Print of the Main Gate and Nakanochōat the Yoshiwara Pleasure Quarters

奥村政信筆 江戸時代・18世紀  据えつつ、長閑な日本堤の情景や色に耽る 吉原の賑わいを破綻なく一つの画面にまと め上げた点に、絵師の高い構成力がうかが える。 (So)

#### 近江の国の勇婦於兼

The Strong Woman Okane of Ōmi Province

歌川国芳筆

江戸時代・19世紀

怪力を誇る勇婦お兼が、暴れ馬の手端を高 が下駄で踏み止めた逸話を描く。糠袋をくわ えて肩に手拭いを掛けたお兼は湯上り姿で、 浴衣から覗く蹴出しの赤が勇ましい。風に なびく毛筋と体の陰影が特徴的な馬の姿態 は、洋書『イソップ物語』の挿図から学習し たものと考えられている。 (So)

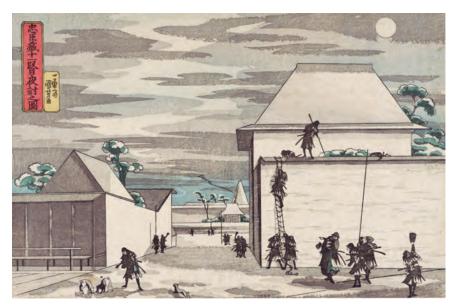


#### ままらしんぐらじゅういちだんのようちのず

Act XI, "Night Attack" of the *Treasury of Loyal Retainers* 

歌川国芳筆 江戸時代・19世紀

雪が積もる冬の夜、赤穂浪士が吉良邸へ討ち入る様子を静謐に描く。満月に照らされた建物や壁を伝う縄梯子の影に、明暗に対する絵師の強い探究のできませんが表われている。ニューホフ著『東西海陸紀行』のバタビア風景図を参考に、歌川国芳(1797~1861)は、まったく新しい忠臣蔵の世界を生み出した。(So)





## 二十四孝童子鑑・

"Zengzi" from the Series *Twenty-Four* Paragons of Filial Piety

歌川国芳筆 江戸時代・19世紀 記之の弟子、曾参が急な来客に苦慮する母を助ける孝行譚。川面に手を伸ばす老女が曾参の母で、薪と鍬を担いだ曾参が橋を渡り帰路を急いでいる。青、緑、茶のコントラストが風景を爽やかに彩る。橋沿いの建物に施された巧みな陰影表現に銅版画学習の成果が表われている。 (So)



## 二十四孝童子鑑・大舜

"Great Shun" from the Series *Twenty-Four* Paragons of Filial Piety

歌川国芳筆 江戸時代・19世紀 家族に命を狙われながらも、恨むことなく 黙々と農作業に勤しむ大舜。この健気な少年を助けるべく、象が土を耕し業が雑草を 啄んでいる。本図を強く印象付ける象は、ニューホフ著『東西海陸紀行』の挿図から 転用したもの。なお、徳を積んだ大舜は後 に帝の位を与えられる。 (So)

## 開成所画学局と 高橋由一

開国の足音が刻一刻と近づくなか、文化8年 (1811) に幕府の翻訳機関である蛮書和解御用が設置される。これにより、洋学は公務として広く研究されることとなった。蛮書和解御用は蕃書調所と名を変え、安政4年 (1857) に絵図はなれた。後の開成所画学局)が新設される。日本近代美術の黎明期を牽引した高橋由一 (1828~94) は、画学局に学び精緻な博物画を多く手がけたが、こうした職務が洋画家としての出発点となっていた。 (So)





博物館魚譜 第5帖 (ソウダガツオ) "Mackerel" from Volume 5 of the Museum Department's *Illustrations of Fish Species* 

博物局編、高橋由一筆 江戸時代·元治元年(1864) 開成所画学局の公務として高橋由一が手がけた博物画。こうした図譜は先行作例の模写である場合が多いが、本作は落款に「写真」とあるため写生にもとづく図と考えられる。

鮮魚特有のぬめりや輝く 鱗の描写はじつに 丹念で、日本近代洋画の先駆者である由一 の画業をたどる上で重要となる作品。(So)

#### 荷蘭宝函 Dutch Magazin

Dutch Magazines

オランダ、アムステルダム 1837年

幕府の洋学研究機関である蓄書調所旧蔵のオランダ語雑誌。その内容は多岐にわたり、世界各国の時事、自然科学や風俗習慣、ラファエロやレンブラントなどの名画が紹介されている。本書の一部は官板『玉石志林』として翻訳出版され、挿図の模写も行なわれた。 (So)







#### ようじん ほぞうず 人捕象図

Man Hunting an Elephant

高橋由一筆 明治7年 (1874)

西洋人が異国の地で象を追う、いわゆるスポーツハンティングを主題とした作品。深い 皺が刻まれた皮膚の質感を表わすためか、象をかたちどる筆遣いは荒々しくも躍動感に富む。陰影によって立体感が与えられた雲の描写は洋画学習の成果だろう。明治7年に 湯島聖堂で開催された「聖堂書画大展観」出品作。 (So)

### さんすい ず山水図

Landscape

高橋由一筆 明治時代・19世紀

中である。 最を描いたものと考えられる。月光に照らされた海沿いを墨の濃淡で表わしつつ、画面 手前の水面をわずかに藍で彩る。明治初期の由ーは油絵のみならず「水墨洋画」なる作品を発表しており、水墨画では「花陰逸人」の画号を用いた。 (So)

#### 展示作品リスト

| No. | 指定 | 名称                    | 作者・地域                            | 時代·世紀             | 伝来・寄贈    | 所蔵・列品番号      |   |
|-----|----|-----------------------|----------------------------------|-------------------|----------|--------------|---|
| 1   |    | 南蛮屛風                  | 「友信」印                            | 江戸時代·17世紀         |          | A-11128      |   |
| 2   |    | 花樹鳥獣蒔絵螺鈿櫃             |                                  | 江戸時代·17世紀         |          | H-4509       |   |
| 3   |    | IHS紋蒔絵螺鈿書見台           |                                  | 安土桃山~江戸時代・16~17世紀 |          | H-4428       |   |
| 4   |    | 桔梗蝶楓鹿蒔絵螺鈿聖龕           |                                  | 安土桃山~江戸時代·16~17世紀 |          | H-4473       |   |
| 5   | 0  | 三聖人像                  | ヨーロッパ                            | 16~17世紀           | 長崎奉行所旧蔵品 | C-691        |   |
| 6   | 0  | 十字架(聖遺物函)             |                                  | 安土桃山~江戸時代・16~17世紀 |          | C-874        |   |
| 7   | 0  | マリア観音像                | 中国、徳化窯                           | 明~清時代·17世紀        | 長崎奉行所旧蔵品 | C-600        |   |
| 8   | 0  | マリア観音像                | 中国、徳化窯                           | 明~清時代·17世紀        | 長崎奉行所旧蔵品 | C-604        |   |
| 9   | 0  | 板踏絵 無原罪の聖母            | ヨーロッパ                            | 17世紀              | 長崎奉行所旧蔵品 | C-711        |   |
| 10  | 0  | 板踏絵 聖母子像 (ロザリオの聖母)    | 製作地不明                            | 17世紀              | 長崎奉行所旧蔵品 | C-714        |   |
| 11  | 0  | 悲しみの聖母 (親指のマリア)       | イタリア                             | 17世紀後期            | 長崎奉行所旧蔵品 | C-698        |   |
| 12  | 0  | エラスムス立像               | ネーデルランド連邦共和国                     | 1598年             |          | 栃木·龍江院蔵      |   |
| 13  |    | 南洋鍼路図                 | コルネリス・ドッツゾーン作、<br>オランダ、エダム       | 1598年             |          | A-9412       |   |
| 14  |    | 色絵傘人物文大壺              | 伊万里 (柿右衛門様式)                     | 江戸時代・17世紀         |          | G-5110       |   |
| 15  |    | 色絵雲文水注                | 伊万里 (柿右衛門様式)                     | 江戸時代・17世紀         |          | G-5744       |   |
| 16  |    | 色絵金襴手鯉滝登り鳳凰文有蓋大壺      | 伊万里                              | 江戸時代・18世紀         |          | 個人蔵          |   |
| 17  |    | トレビの泉図蒔絵プラーク          |                                  | 江戸時代·18世紀         |          | H-4525       |   |
| 18  |    | フリーメイソン螺鈿箱            |                                  | 江戸時代・19世紀         |          | H-4515       |   |
| 19  |    | 花鳥螺鈿薬瓶箱               |                                  | 江戸~明治時代·19世紀      |          | H-4514       |   |
| 20  |    | ガラス絵蒔絵煙草盆             |                                  | 江戸時代・19世紀         |          | H-535        |   |
| 21  | 0  | 浅間山図屛風                | 亜欧堂田善筆                           | 江戸時代·19世紀         |          | A-79         |   |
| 22  |    | 草花図扇面                 | 安田雷洲筆                            | 江戸時代・19世紀         | 五十嵐雅言氏寄贈 | A-247        |   |
| 23  |    | 博物館魚譜<br>(ソウダガツオ、メアヂ) | 博物局編、高橋由一筆                       | 江戸時代・元治元年(1864)   |          | QA-863       |   |
| 24  |    | 荷蘭宝函                  | オランダ、アムステルダム                     | 1837年、1845年       | 蕃書調所伝来   | 洋書 帝洋N-44    |   |
| 25  |    | 洋人捕象図                 | 高橋由一筆                            | 明治7年(1874)        |          | A-303        | * |
| 26  |    | 山水図                   | 高橋由一筆                            | 明治時代・19世紀         |          | A-373        | ☆ |
| 27  |    | 日本誌 (英語版)             | エンゲルベルト・ケンペル著、<br>イギリス、ロンドン      | 1728年             |          | 図書 E0403     |   |
| 28  |    | 解体新書                  | 杉田玄白ほか訳                          | 江戸時代・安永3年 (1774)  | 徳川宗敬氏寄贈  | QB-4555      |   |
| 29  |    | 外科道具差                 |                                  | 江戸時代・19世紀         | 五十嵐雅言氏寄贈 | E-14205      |   |
| 30  |    | 準回両部平定得勝図             | 郎世寧 (ジュゼッペ・カスティ<br>リオーネ) ほか下絵、中国 | 清時代·18世紀          |          | A-9138       |   |
| 31  |    | 新吉原大門口中之町浮絵根元         | 奥村政信筆                            | 江戸時代・18世紀         |          | A-10569-890  | * |
| 32  |    | 浮絵異国景跡和藤内三官之図         | 歌川豊春筆                            | 江戸時代・18世紀         |          | A-10569-2267 | ☆ |
| 33  |    | 近江の国の勇婦於兼             | 歌川国芳筆                            | 江戸時代・19世紀         |          | A-10569-5381 | * |
| 34  |    | 忠臣蔵十一段目夜討之図           | 歌川国芳筆                            | 江戸時代・19世紀         |          | A-10569-2542 | ☆ |
| 35  |    | 二十四孝童子鑑・曾参            | 歌川国芳筆                            | 江戸時代・19世紀         |          | A-10569-5375 | * |
|     |    |                       |                                  |                   |          |              |   |

★は前期展示 (11/25~12/13)、☆は後期展示 (12/15~1/11)、特に印のないものは通期展示です。

表紙作品:南洋鍼路図、南蛮屛風、浅間山図屛風

執筆:浅見龍介(A)、伊藤信二(IS)、猪熊兼樹(IK)、植松瑞希(U)、酒井元樹(Sa)、曽田めぐみ(So)、横山梓(Y)、鷲頭桂(W)(以上、東京国立博物館)

翻訳:ダニエル・モラン、東京国立博物館国際交流室 写真撮影:藤瀬雄輔、西川夏永(以上、東京国立博物館)ほか

#### 特集 世界と出会った江戸美術

 $The matic \ Exhibition \ \textit{Japan and the World: 300 years of Global Exchange}$ 

令和2年 (2020)11月25日発行

デザイン・制作:美術出版社 デザインセンター

発行:東京国立博物館、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

©2020 東京国立博物館 Tokyo National Museum